職業奉仕活動から始まり、次に自分達が住んでいる地域社会に奉仕する社会奉仕活動が続き、その後、ロータリー創立16年目に国際奉仕の理念が取り入れられ、いわゆる四大奉仕が確立された訳であります。

その後、さらに時間を経て、自分達の住む「地域社会」への奉仕活動に対して、さらに視野を広げた「世界社会」への奉仕活動も大変重要であると言う考えが生まれたのであります。

もし、地球上のどこかに貧困があるとすれば、その事は世界全体の豊かさを危うくするものである事を、世界中のロータリアンが良く認識し、手を取り合ってあらゆる国の人々の生活水準を高めようとする措置を支援しなければならないと言う考え方であり、その活動の重要性が叫ばれたのであります。これが世界社会奉仕活動の根本理念なのであります。

ジェームス、L、レイシーR.I直前会長は、その年度に、こんなメッセージを我々に送っております。

「今!!　世界では飢餓と予防可能な疫病の為に亡くなっていく5才未満の子供が1分間につき24人という悲しい現実があります。そして幸いにして学齢期まで生き残った子供達の内、1億4000万の人が学校に通うことが出来ません。同時に、世界でほぼ1億人の子供達がホームレスまたは貧しいストリート、チルドレンです。そして1億人の子供達が劣悪な条件の下で家族の生計を立てる為に、働かざるを得ないと言う状況です。これらの子供達の涙を見て、その涙を拭ってやりたいと思わないロータリアンはどこにも居ないはずであります。」と申されております。

この様な現実を知った今、我々はこの子供達の涙を少しでも多く拭ってやらなければなりません。我々はすぐにでも、そして手軽に、この活動に参加できる手段を持っているのであります。それが、ロータリーのW.C.Sプログラムなのであります。

ロータリーの国際奉仕活動を、仮に教育的プログラムと人道的プログラムに別けた場合、このW.C.S活動は人道的プログラムの中の代表的な活動なのであります。我々はこのプログラムを活用する事により、今すぐにでも世界の中のどこかの貧困に救いの手を差し伸べる事が出来るのです。

1967年に発足したこのW.C.S活動が、いかに重要なプロジェクトであるかと言う事は、この活動が別名「地球規模での奉仕と親睦」、「希望の静かなる革命」と呼ばれている事からも分かる通り、ロータリーの誇るべき活動なのであります。

この活動は具体的には、2つ以上の国のロータリアンやロータリークラブや地区が、お互いに協力して援助を必要としている人達を助ける事を可能にする活動であります。そして重要な事は、これらの国の1つがプロジェクト実施地でなければならないと言うことであります。

そして何よりも素晴らしい事は、これら援助実施地のロータリアンと提供地のロータリアンとの間には、まさに人道主義に溢れた親睦と友情が深まるのであります。その上、人類同胞の為に海外でも奉仕する事が出来ることの実感を我々は得る事が出来るのです。これこそ、我々が追求している「超我の奉仕」の実践ではありますまいか…。

もし、貴方や貴方のクラブが、W.C.Sは実施したいのだけれど、その方法が良く分からない、又は国際的なパートナーが見出せないと悩んでおられるならば、今すぐにR.I日本サービスセンターから入手できる出版物「W.C.Sプロジェクト交換;一覧表」（754－JA）を取り寄せ、ご覧になってください。援助を必要とする国々のロータリアンがこの出版物にそのプロジェクトの簡単な説明を載せ、現地との連絡が取れる様にプロジェクト、コーディネーターの氏名と連絡先を列記しております。この一覧表から貴方は全世界42カ国から提案された数百を超える種々なプロジェクトから、貴方や貴方のクラブが最も関心を持つ事の出来得るプロジェクトを選ぶ事が出来るのであり

卓　　話：「ロータリーの青少年交換と世界社会奉仕について」

R.I第2560地区国際奉仕大委員長　岡村本治様

皆様こんにちは!!　ご紹介頂きました伊勢崎R.Cの岡村と申します。

本日はお招きを頂きまして大変ありがとうございます。

実は、昨年の地区協議会、第六分科会に於きまして、こちらのクラブの米山国際奉仕委員長さんには、私の誠に拙い話をご拝聴頂き、ありがとうございました。それがご縁で本日の運びとなった訳でありまして、私といたしましては恥ずかし気も無くのこのこと出掛けて参りました無礼を先ずもってお許し頂きたいと思います。

元より浅学非才な小生のこと、大したお話は出来ませんが、たまたま今年度は地区の国際奉仕委員長という大役を仰せつかっておりますし、毎年2月はロータリーの世界理解月間でもありますので、これに因んで少々お話しさせて頂きます。

お聞きしたところによりますと、こちらのクラブでは来年度一年交換学生の派遣と受入れを実施する予定とのことでございます。素晴らしいことであります。ぜひ成功されるよう心から願っております。そこで、本日は先ず始めに青少年交換について、そして2番目に国際奉仕活動の中では最も重要とされている世界社会奉仕活動についてお話し申し上げ、私の責めを果たさせて頂きたいと思います。

さて、ロータリーの青少年交換プログラムでありますが、この活動は世界の至る所で活発に実施されており、国際理解と親善を推奨する意義のある活動として高く評価されております。そしてこのプログラムの管理は全て、クラブや地区のレベルで行われるものでありまして、R.Iは基本的には関与致しておりません。

現在世界中のクラブや地区では、毎年10,000人を超す高校生が遠く離れた他国の文化を自らの目で学ぶべく留学生活を送っております。

そして、この交換プログラムには次の3つの種類が有ります。

先ず、長期交換でありますが、これは通常一学年度の交換制度であります（期間は11ヶ月以上12ヶ月未満）。必ず相手国の高校に通学する事が義務付けられており、参加資格はロータリアンの子女であるか否かを問いません。青少年交換の主流はこの一年交換であります。

次に、短期交換でありますが、期間は数日から数週間と言うもので、主に学校の休暇中を利用して行われます。現在当地区では、ドイツの地区とこの交換を実施しております。当地区では参加クラブが順番制になっておりますので、こちらのクラブでも既にご経験はあろうかと存じます。

そして3番目に青少年障害者の交換制度があります。これは障害学生を対象にした短期又は長期の交換であります。R.I理事会では場所的にも時期的にも可能であれば、青少年交換プログラムに障害者を参加させる事を大いに奨励しております。現在では毎年100名を超す障害学生がこのプログラムに参加しております。

そこで、以前私がこの地区の青少年交換委員長を努めさせて頂いた頃で、今から考えますと随分と古い話で誠に恐縮ではありますが、一つの素晴らしい記事に出会った事がありましたので、それをご紹介させて頂きます。

それは我々のすぐお隣りの2770地区、埼玉県大宮西ロータリークラブが実践した「身体障害学生の参加した交換の成功」という素晴らしい報告であります。これには「セーラが私達に教えてくれ

た事…」とサブタイトルが付いていました。

セーラは脳性麻痺の為、歩行が不自由だったのです。その記事には次のように記してありました。一部分短縮して読ませて頂きます。

> 「一月真夏のオーストラリアから交換学生のセーラ嬢がやって来ました。…最初、セーラ自身が不安がっていることは私達にも良く分かりました。…大部分の交換学生はまずこのような不安にかられます。まして身障者がこのような不安に立ち向かうには途方もない勇気と決意がいることでしょう。…私達ホストクラブの一番の問題はセーラの通学でした。普通ならば電車を利用し、駅から学校までは歩きます。…でもセーラは100㍍行っては一休みしなければなりません。学校までの距離はセーラには時間がかかりすぎます。また電車の殺人的ラッシュも無理でした。
>
> 私達のクラブは賭けに踏み切りました。行きだけは会員が３日交代で車で送り、帰りは時間がかかっても一人で歩かせようと……一番不安を感じたのはセーラ自身でした。…９ヶ月が過ぎました。彼女の足が太くなり、体も一回り大きくなりました。満員電車で通うまでになりました。よく笑う活発な少女に変身していたのです。
>
> セーラは我々に障害者の目の高さでものを見るよう差別を超えたまなざしを教えてくれました。…そして「受ける喜びよりあたえる喜び」を私達に知らせてくれました。…不安と期待のうちにスタートしたこの受け入れ……想像以上の困難もありました。
>
> そして一年後、私達は私達のクラブが達成したことを、非常に誇りに思っています。」

この記事を読んで私は震えるような感銘を受けました。ロータリーの青少年交換の素晴らしさを知りました。人と人との触れ合いから素晴らしい成果が生まれることを知りました。それと同時にこの委員会の仕事は社会に巣立つ前の若さと未知の力を秘めた青少年達が相手であることに責任の重大さをひしひしと感じさせもしました。

まぁこの話は非常に特殊な例ではありましたが、ロータリーの奉仕の根幹にも触れる話でもありましたのでご披露させて頂きました。

さて、こちらのクラブは来年度一年交換学生を受け入れる訳でありますので、次に、受入れクラブに関するいくつかの留意事項を申し上げてみたいと思います。

先ず、受入れはクラブが主体でありますので、クラブ会長さんを始めとしてクラブ全員で来日した学生が一年間有意義な留学生活を過ごせるよう配慮して頂かねばなりません。具体的には、

1）　ホストファミリーを手配すること。（一年間で３～４家庭が望ましい）
ホストファミリーは、ロータリアンの家庭であってもなくてもさしさえありませんが、ロータリーの青少年交換プログラムの意義を良く理解して頂くことが必要です。

2）　地元の高校の入学手続き、授業料、その他の教育関係や通学に必要な一切の手配を整えて下さい

3）　交換学生には必ず顧問ロータリアン（カウンセラー）を任命して下さい。

4）　クラブの国際奉仕委員会やカウンセラーは交換学生を出迎え、ホストファミリーの家まで案内して下さい。

5）　交換学生が我国の社交面、文化面の催しに出来るだけ数多く参加するように手配して下さい。

6）　交換期間中、カウンセラーを通じて、交換学生とホストファミリーとの連絡を取って下さい。

7）　ホストファミリーが決まったら、ホストペアレント全員に対して受入れのためのノウハウや、学生が滞帯中守らなければならない規則や、学生が次の家庭に移る期日、また学生が出席すべき地区の会合や催しの期日などを、あらかじめ話し合っておくことも必要です。

8）　地区の委員会から要請のあった行事には必ず学生を参加させて下さい。例えば地区大会やスキーオリエンテーションやハイキングオリエンテーションなどであります。

9）　地区からは受入れクラブに対して多少の援助金は支払われますが、当然それだけでは学生に対する費用として充分ではありません。従って金銭的にもクラブやホストファミリーには奉仕の精神を発揮して頂くことになります。

まぁ大体概略は以上の通りでありますが、先程申し上げました中に顧問ロータリアン（カウンセラー）の任命がありました。この事は、その学生の一年間の留学生活の成否を握る重要なポイントでありますので、それについて一言だけ付け加えさせて頂きます。交換学生は出発前に、自国の青少年交換委員長さんから、ロータリーには次のような制度がある事をよく教育されて出掛けて参ります。それは、「このロータリーの青少年交換計画は、交換学生の顧問として、ホストファミリーの一員でないロータリアンを任命することを定めています。この顧問ロータリアンはいつでも君の味方です。いつでも君を援助します。遠慮なく訪ねて下さい。感情が傷つけられたり、無視されたと思うたびに顧問ロータリアンの所へ行くということではありません。あなたの問題がホストファミリーの両親と話し合えないようなものであれば、顧問に相談し、その助言に従ってください。」と言われて参ります。

つまり顧問ロータリアンの立場は非常に微妙であり、重要なのであります。学生にとって顧問ロータリアンは唯一の頼みなのであり味方なのであります。この制度があればこそ、未だ年若い高校生が他国への単身留学を安心して実施することが出来るのであり、ロータリーの交換制度の素晴らしい所なのであります。

どうかこちらのクラブに於かれましても、カウンセラーになられる方は、学生が来日したその日から緊密なる信頼関係をお作り頂くようお願いしておきます。受入れの成否はいかに早くこの信頼関係を築き上げるかで決まると言っても過言ではありません。又、顧問ロータリアンの具体的役割や、受入れホストファミリーに関する留意事項等、お話することは沢山ありますが、本日は時間の関係上割愛させて頂きます。

但し、これらの細かいことは、こちらのクラブが学生を受け入れる前に当地区の委員会が主催するオリエンテーションにて充分なるご説明がありますので、是非出席してお聞き下さい。少し長くなりましたが、以上でロータリーの青少年交換についてのお話は終了させて頂きます。

次に冒頭に申し上げました通り、ロータリーの国際奉仕活動の中で最近特に脚光を浴びてきた、世界社会奉仕活動についてお話しさせて頂きます。

このことに関しましては、既に皆様のお手元に届いているかとは存じますが、当地区のガバナー月信第８号（２月号）に、私が世界理解月間に寄せて―国際ロータリーとW.C.Sプログラム―というタイトルで小文を掲載させて頂きました。既にお読み頂いた方には誠に恐縮ではありますがこの小文はW.C.Sについての概略でありますので、先ずこれを読ませて頂きます。

W.C.S（ワールド、コミュニティ、サービス）とは、世界社会奉仕と訳されているロータリーの活動であります。この活動は、今やロータリーの国際奉仕活動の中で最も重要な柱として位置づけられ、推奨されているものであります。

ロータリーの奉仕活動成立の推移を歴史的に考えるならば、最初は自分の職業を通じて実践する